

アークフラッシュされた全国48箇所の老人施設は8年間インフルエンザの発症が報告されておりません。

< * > <http://www.arc-flash.co.jp> アークフラッシュ NEWS をダウンロードによりご覧頂けます

中国農業部は16日、江蘇省内で鶏卵から鳥インフルエンザのH5N1型ウイルスが見つかったため、家きん類 37.7万羽を殺処分にしたと発表した。感染が確認された家きんは見つかっていないという。

中国衛生省は18日、山東省済南市在住の女性(27)が鳥インフルエンザウイルス(H5N1型)に感染し、17日夜死亡したと発表した。今月5日に北京で鳥インフルエンザによる初の死者が出たほか、17日にも山西省で2歳の女児が重体になっていることが判明したばかり。

中国で相次いで鳥インフルエンザウイルスの患者が見つかり、衛生当局は、今月末の旧正月を前に、警戒を強めています。中国の衛生当局は、山東省に住む27歳の女性が、H5N1型の鳥インフルエンザで死亡したことを明らかにしました。5日に発病し、17日に亡くなったということですが、感染ルートなどは明らかになっていません。また山西省では、2歳の女の子が鳥インフルエンザにかかり、重体です。この女の子は中国南部の湖南省で発病し、祖父母と山西省に戻ってから病状が悪化、その後の検査でH5N1型のウイルスが見つかったものです。中国では、今月末の旧正月から人や物の動きが激しくなるため、衛生当局や農業部では監視を強めています。

東京都町田市真光寺町の鶴川サナトリウム病院(医療法人財団明理会経営、内科と認知症治療主体の精神科など)は17日、入院患者77人と職員24人の計101人が今月、相次いでインフルエンザを発症、女性患者3人が死亡したと発表した。都は既に同病院を立ち入り検査し、院内感染の再発防止徹底を指導している。日野研一郎院長は17日夜、記者会見し「心配とご迷惑をかけ、おわびする」と謝罪した。院長も感染したという。同病院によると、3日に20代の女性職員がインフルエンザに感染。6日以降、11ある病棟のうち7病棟の入院患者らに広がった。亡くなった3人は認知症で寝たきりの100歳、認知症の85歳、脳梗塞(こうそく)の後遺症などがある77歳。いずれも9日に発熱し、タミフルや抗生剤の投与を受けるなどしたが、高齢の2人が11日に、77歳の女性が16日に死亡した。17日現在、感染者のうち、熱があるのは34人(患者32人、職員2人)で、84歳の男性患者1人が肺炎を併発して重症という。同病院は年末年始で患者や職員の外泊、患者への面会が多かったことが感染の要因の1つとみている。

この病院は昨年アークフラッシュの営業を行った病院であります。病院内は非常に乾燥した状態で、これでは早く亡くなる事を暗に望んでいるような言い回しも有り、命を守る病院の使命としては最低の所であると認識しておりました。病院側のモラルを問われる事件となりました。

岡山県内でインフルエンザの発生件数が急増、学校などの臨時休業なども相次いでいる。県によると21日までの小中高や保育園、幼稚園などの臨時休業は、休校・休園7(昨季7)▽学年閉鎖46(同36)▽学級閉鎖79(同55)。臨時休業した施設数も19~21日の3日間で計72施設と、ここ数日、高い水準で推移した。インフルエンザとみられる患者数は計2700人(同2069人)に上っている。県内84医療機関の定点調査では、12~18日の1週間で1カ所当たりの患者数が20.68人で、前の週(5~11日)の9.62人から倍増した。ウイルスはAソ連型ウイルスが検出されている。また、健康対策課によると、県環境保健センターが国立感染症研究所(東京都)に送った検体3件すべてが、治療薬タミフルが効かないタイプだったことも判明。同研究所によると、これまでに18道府県で同種のウイルスが検出されている。県は、人ごみを避けること▽マスクの着用▽手洗い、うがいの励行——などを呼びかけている

鹿児島県によると、県内の小学校や幼稚園など4施設が21日、インフルエンザとみられる集団感染で、休園や学級閉鎖などの措置をとった。県は20日に流行警報を発令しており、引き続き注意を呼び掛けている。県健康増進課によると、鹿児島市の鹿児島さくら幼稚園で18人が発症し21日、休園。日置市立日吉中、垂水市立境小でも集団感染があり、22~23日を学級閉鎖とする。また、加治木町のあいら幼稚園でも63人が発症し、22~23日を休園する



日本では事が起る事が予想できるにも関わらず、対策をおろそかにして大きな代償を償う事になる事を昔から続けてきた。

映画「感染列島」では・妻夫木聡 命もつ人間のあるべき姿伝えたい

デング出血熱で3人死亡、非常事態宣言発令

ラパス(CNN) 南米ボリビアで今年に入ってから 17 日までに、致死性の高いデング出血熱で3人が死亡、さらに12人に感染の疑いが持たれている。同国の保健省は非常事態宣言を発令、感染拡大防止のため兵士2万人以上の派遣を決めた。ABI通信などによると、死亡したのは12歳以下の男児と17歳少年、30歳女性。男児はラパスの小児病院に搬送された時点で、臓器などでの出血がひどく、手当て出来ない状態だったという。デング出血熱とデング熱は蚊が媒介する疾患。症状は高熱や激しい頭痛、筋肉痛などで、東南アジアや中南米などの熱帯、亜熱帯地域で流行する。ワクチンはなく、予防法は蚊に刺されないようにすることのみ。ボリビアでは雨期になる11月から翌1月までが流行時期とされている。米疾病対策センター(CDC)は、世界で毎年、1億人が感染していると推測。去年はブラジル南東部で流行し、5万5000人が感染、少なくとも67人が死亡している。

ジンバブエのコレラ感染が農村に拡大、死者2500人に

コレラがまん延しているジンバブエで、感染が農村地域に広がっている。コレラ感染者が都市部を離れ、田舎に移動したため、国連機関は21日、同国のコレラ死者数が約2500人、感染者数は4万人以上に達したと発表した。ワールド・ビジョン・ジンバブエのコレラ対応マネージャー、ウィルフレッド・シククラ氏は、国際機関が必要な資源を動かして対処しているものの、コレラを制圧できていないと指摘。「当初は都市部での始まった感染だが、感染者の一部が田舎に移住する流れが起きている。農村部で新たな感染報告が続いている」と述べた。

*** 発行責任者:株式会社アークフラッシュ本部**

笹川 透

03-5337-7275 FAX 5337-7465 sasagawa@arc-flash.co.jp

過去のアークフラッシュ NEWS はホームページよりご覧になれます。